2013年（平成25年）
第68号
（8月1日）

平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211
FAX (075)762-2266

楽しい仲間たち 近畿教区「少年少女フェスティバル」

７月28日、大阪教会において近畿支教区「少年少女フェスティバル」が行われました。

夏休みの時期に合わせて、近畿の小学生が集い、日頃の活動成果の発表や各教会の工夫を凝らした催しに、一日楽しく過ごしながら、仲間づくりをしていこうという企画です。

京都教会からは子どもたちと保護者をはじめ、支部長さんや青年・学生部のお兄さん・お姉さんなど80名が参加しました。

その代表が舞台発表をしました。鼓笛の演奏、ダンスの披露、バトンの演技を行い、支部長さんを中心にアツい応援がありました。他教会の舞台発表も素晴らしく、観客は熱のこもった声援を送っていました

一方、各教会がスライム作り、うちわ、プラバン、ミサンガ・ストラップ作り、おばけ屋敷、バルーンアート等のブースを出しました。

京都教会は『みんなでつながリレー』という、小さなボールを落とさずリレーするゲームを行いました。子どもたちの必死の姿に周りから激励が飛んでいました。

舞台発表（上）ゲームコーナー（下）

「仏教を日常に生かす」比叡山仏教文化講座にて

７月27日、比叡山延暦寺会館において、第48回仏教文化講座が開催されました。会場を埋め尽くした参加者は、日常から離れ、比叡山の空気の中で、心を豊かにする講演を学ぶことができました。

冒頭に、延暦寺執行・代表役員 武覚超氏導師による法楽が執り行われ、京都新聞社・取締常務執行役員柴田嘉章氏の挨拶で講座は始まりました。

第一講は「伝える心」をテーマに金乗院住職・天台宗宗議会議長の栢木寛照氏が、仏教に基づく日常生活のあり方を分かりやすく説かれました。

第二講では、テレビで有名なベニシアインターナショナル英会話スクールのベニシア・スタンリー・スミス氏が「心の声を聴きましょう -Listen to your heart-」と題して語りました。彼女の、これまでの人生と、日本人よりも日本人らしい価値観を聴くことができました。

第三講は「おいしさを科学する」という演題で、京都大学大学院農学研究科教授・伏木亨氏が講演されました。現代日本人の食生活について科学的にメスを入れた話しでした。尽きない『欲』というところは、仏教にも通ずるテーマであると教えられました。

時々刻々

♪新しい朝が来た、希望の朝だ、喜びに胸を開け、大空仰げ……▼早朝に沢山の子どもたちが公園に駆け寄ってきます。ラジカセから流れる曲に合わせてみんなで体操します▼もちろん目当ては出席カードにスタンプを押してもらうこと。最終日には参加賞がもらえるのも楽しみです▼ラジオ体操は国民の健康と体力増進を目指して、昭和３年に誕生し、今年で８５年になるそうです。親から子へ、子から孫へ、孫からひ孫へ受け継がれています▼ラジオしかなかった時代と異なり、今ではダンス体操やアルゴリズム体操などがブームです。ちょっと難しいが、できた時の達成感も喜びのひとつです▼とは言え、ほとんどの日本人が一緒にできるのもラジオ体操の特徴です。日中の暑さに負けないためにも、すがすがしい朝の一時、身体を動かしてみてはいかがでしょう。ソレ　一・二・三。

今月のことば　～水に学ぶ～

京都教会長　佐藤益弘

連日、猛暑が続きますが、そのような時期に涼しい気持ちにさせてくださるご法話をいただきました。

さっそくですが、機関誌『佼成』８月号において、「水に学ぶ」というご法話を会長先生から頂きました。

前段で、**「さらさら流る」**とお説きくださいました。ここでは、私たち人間（をはじめ生きとし生けるもの）は、水なくしては生きることができず、水とは切っても切り離せない関係にあることを、あらためて学ばせて頂きました。

その水のお話から、「法」についての字義、つまり、水が自然に高いところから低いところへ流れるように、普遍的な法則の意味があるということを述べられています。さらに続いて「仏」の語源についてもふれられ、「ほどける」ともいわれ、執着やこだわり、とらわれから解放された人を、「ほとけ」と呼ぶことを教えてくださっています。本会は、一言で言うと、**「仏になる会」**ということですから、「執着やこだわることなく、とらわれから解放された人になる会」ということを、ハッキリと明示して頂いたものと思います。そのためには、仏法に随って素直に実践することが何よりも大切であるということを、深く心に刻ませて頂きました。

後段の、**「すべて仏の説法」**では、水の特性と人間の生き方を重ね合わせたものについて、たとえとして述べられています。

◇人に合わせることが苦手な人には、どんな器にも納まる水の変幻自在な特性が大事なことを教えています。

◇過去に縛られて苦しむ人に、ゆく川の流れは何を語るでしょうか。

◇なかなか人に認められないと悩む人にとって、「点滴石を穿つ」の言葉は自信や勇気を与えるはずです。

このように、水が教えてくれていることから、心の持ち方を学ばせていただきました。

さらに弘法大師空海の「水は自性なし　風に遇うてすなわち波たつ」というお言葉を紹介され、「これは、定まった性をもたない水になぞらえ、**日々の縁は受けとめ方しだい**であるとも、また、ふれる縁によって心を波立たせることの多い私たちですが、そんなときには慌てず騒がず、**現象をありのまま見つめ、受け容れることが大切**であるというお諭しとも受けとめることができそうです」と、意味あいを教えてくださいました。そのことを忘れず、すべて仏の説法と受けとらせていただき、今月も精進して参ります。

これからも厳しい暑さが続きます。皆様におかれましては、くれぐれもご自愛くださいますよう、お祈り申し上げます。

～祇園祭　千余年の歴史を陰で支えたボランティア～

６月 30 日、祇園祭曳き手ボランティアオリエンテーションが八坂神社及び元弥栄中学校で開催され、山鉾町役員のみなさんと参加者全員が集合しました。八坂神社の境内においての参加者全員のお祓い後、元弥栄中学校体育館での全体説明会には藤田副市長も出席され、激励の言葉がありました。

また、本ボランティアは今年で 30 周年を迎え、秋には記念式典を開催する予定です。それに先立ち記念扇子が公開・販売されました。

本番の７月１７日巡行には京都教会青年部及び新宗連青年部合同で 16 名が参加し、橋弁慶山を担当しました。また沿道整備や補充要員などにも参加し、伝統あるお祭りを陰で支えました。

巡行に先立ち７月 14～16 日の間、祇園祭の宵山で四条通を中心に歩行者天国になります。その間、路上にゴミが放置されない街にしようと「美しい祇園祭をつくる会」がゴミ分別回収ボランティアを行なわれました。明社会から３日間のべ 80 名が、ボランティアとして参加しました。

～かめおか宗教懇話会・総会～

７月 13 日、ガレリアかめおかの大広間に於いて平成 25 年度かめおか宗教懇話会総会及び記念講演会が行なわれました。

総会では宝積会長の挨拶の後、24 年度の事業報告及び収支決算報告、25 年度の事業計画・予算の発表がありました。

そして、「かめおか・こころ塾」の継続開催も全会一致のもと可決されました。

引き続き、記念講演会として栗山内科クリニックの栗山欣彌氏より「医学・医療と宗教の関わりについて～人間の生死にまつわる問題を考える～」と題し、日頃の医療現場における体験談から『人のいのち』についての話がありました。

～野上支教区長さんをお迎えして大法座～

７月４日、開祖さまご命日式典で野上支教区長さん法座主のもと、大法座が行なわれました。

ある会員さんから昨年、大手術をして最近調子が悪く不安で仕方ないと相談され、支教区長さんは、自身の母の思いを感じることが出来てありがたいと述べ、「生老病死は仏さましか分からない。不安な時こそ、今まで修行してきた経験を活かす時です」「前の先生と今の先生を見比べる相対の世界から絶対の世界を見られる自分に高まって頂きたい」「先生が大丈夫とおっしゃるのだから大丈夫ですよ。ありがとうを未来に向かって言える自分になって下さい」とアドバイスされました。

亡くなられた身近な方の成仏を願って　～まごころこもった盂蘭盆会式典～

７月 15 日、法座席において盂蘭盆会が行なわれ多くの会員さんが参拝されました。

各支部代表による奉献の儀の後、読経供養があり、教師資格者による１万４千余名のお戒名読み上げ、供養されました。その後、本部聖壇者へのおたすきの授与式、体験説法、佐藤教会長さんの法話がありました。

教会長の法話で盂蘭盆の逸話にふれ「目連尊者は神通力があるにも関わらず地獄に落ちた母を救えずにいたが、多くの人と一緒にご供養すると救われるという釈尊の教えを実行して母が成仏できた。このことから、感謝を持ってご供養することやご法の仲間が一致団結する時の力強さ、親に喜んで頂くことが大切である」と述べました。

庭野日敬の著書に学ぶ　「見えないまつげ」より

****

いま、新聞でも雑誌でもいちばん大きく扱われるのは経済の話のようです。経済といえば聞こえはいいのですが、つまりは金もうけの話です。日本が経済大国になったのはありがたいことなのですが、結局はお金のことしか念頭にないというのでは、あまりほめられたものではありません。

もちろん必要なだけのお金は持っていたいものです。思いがけない出費に備える貯蓄も必要でしょう。しかし「もっと欲しい」「もっと多く」と、かぎりなく欲望をつのらせていったらどうなるでしょうか。気持ちがそれにとらわれて、品性が下劣になったり、人間らしさが失われたりします。また、持てば持つほどそれを失いたくないという執着が強くなって、けちけちして暮らすようになりがちです。

人間の欲というものは、ほうっておくとどんどん大きくなるものですが、こういう欲を抑えるいちばんの早道が、自分の持てるものを人さまにさしだすことなのです。ところが、「人に分け与えるほど私は持っていない」という人が多いのです。それが、まだ欲にしがみついている証拠です。そういう人ほど布施が大切なのです。

****

このあと、釈尊が説かれた「無財の七施」について解説されています。どんな苦しい境遇にあっても、布施ができるということを教えられたものです。

近江商人の商売が繁盛したのは「三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）」という考え方あったからだと言われています。

「欲を張って」自分の損得しか考えない人生にするか、まわりの人々に施し「欲を捨てる」生き方を選ぶのか、そんなことを考えさせられます。

「世界平和とWCRPの貢献」

《WCRP 創設者の願い》

本年１１月、オーストリアのウイーンで「**第９回世界宗教者平和会議(WCRP)**」が開催されることが決定しました。そこで WCRP がどのような願いのもとに誕生し、どのような活動を展開しているのかを紹介していきたいと思います。

WCRP の創設者のひとりである本会の庭野開祖は、創設の経緯を次のように述べています。**「太平洋戦争の時、日本の宗教者は無謀な戦争をやめさせるために、政府に働きかける勇気を持てませんでした。そのために全国の都市が次々と焼け野が原になり、沖縄では少年少女まで戦って玉砕し、ついに広島と長崎に原爆が投下される悲劇が起きました。世界中でどれほどの人命が犠牲になったことでしょう。宗教者は勇気を持たなければ、一人の人さえも救うことが出来ないことを、あらためて教えて頂いた思いです」**

「宗教者の私にとって一番残念なことは、『宗教が介在するために戦争が起こり、事態が深刻化するのだ』と言われることでした。宗教が戦争を起こしたのではなく、戦争を起こしたのは人間なのです。そのために私は『宗教の国連』といわれる『世界宗教者平和会議』の創設に力を注いだとも言えます」

庭野開祖の夢は、**宗教の国連を作りたい**ということであり、WCRP の本部をニューヨークの国連本部の近くに置いたのも、かつて国連の軍縮特別総会において、時のカーター大統領とブレジネフ書記長に対して**「危険を冒してまで武装するよりも、平和のために危険を冒すべきだ」**との提言をされたのも、そのような願いがあったのです。

日本も過去の戦争において、天皇陛下を神格化して国民を洗脳した歴史があります。世界の国々を見ても、一見は宗教間の争いに見えますが、実は**宗教に名を借りた人間どうしの争い**なのです。庭野開祖はそうした争いをなくすために、宗教の国連といわれる世界宗教者平和会議の創設に心血を注がれました。

しかし、今でこそ宗教協力は当たり前のようになってますが、当時は異なった宗教者が同じテーブルに就くのは大変なことでした。宗教や宗派を超えて WCRP 創設に取り組んでこられた先達の方々のご苦労は、並大抵のものではありませんでした。

《創設にかけた心意気》

庭野開祖は**「何の取り柄もない、私ですが、ただ、私にも出来る事は、全宗教者の善意と力を一点に結集するための橋渡しのために、使い走りをさせて頂くと言う事でしょうか」**

「私は、平和をめざす宗教協力活動が決して甘いものではないことは重々承知しています。よく外国の記者からも『そんな活動をしていて効果があるのか、事態は良くなったのか』と聞かれることがあります。しかし、私は宗教協力がいつか大きく実を結ぶことを心から信じていますから、そうした質問に対しては『世界が一向によくならないからこそ、全力でやっています』と答える事にしているのです」といって、志を同じくするお仲間と歩みだされたのです。　（つづく）

～秋にありがとうコンクール開催～

京都教会１日100回運動推進委員会では10月14日を「ありがとうの日」と定め、ありがとうコンクールを開催します。
日頃の感謝を言葉に込めて応募して下さい。

■応募内容：「ありがとう」の感動を表現したもので標語・川柳・詩・短文何でも可
■応募要領：一人一枚までとし支部名・氏名・性別・年齢と作成の思いを記入し法座席備付箱に投函
■応募期間：７月 14 日～８月 31 日
■優秀作品は10月１日～14日に教会に掲示します。

■■　エコキャップ回収推進運動　■■

いつもありがとうございます。　2013 年５月 16 日現在で　**３７４，９２０個**　の実績です。

涉外部からのお知らせ

●８月の主要行事予定

８月 １日	朔日参り・布薩の日	９：00～
４日	開祖さまご命日	９：00～
10 日	脇祖さまご命日	９：00～
15 日	戦争犠牲者慰霊 並びに平和祈願の日 講演：花垣ルイ氏	９：00～

●メッセージ

山口県で村民５名を殺害し放火するという凄惨な事件がありました。犯人の両親が亡くなってから、ご近所との付き合いがなくなったとのこと。村民の方が言うには「両親の世話をするくらいだから根は悪くないはずなんだ」と。殺害してしまったことは取り返しのつかないことですが、誰かが犯人の仏心を開かせていれば、結果は違っていたはずです。